

# 融合プロジェクト発表会

7月17日(木)に、3年生が「探究」において、2年次の3学期より取り組んできた「融合プロジェクト」の発表会が行われました。

融合プロジェクトとは、文系フロンティアコース、普通コース文系、普通コース理系、理数科の生徒がクラス横断で一つのグループを組み、能登の課題についての解決策の提案を行うものです。今年度は「生成 AI を活用した震災復興と地域の活性化、地域が抱える課題解決」をテーマに、具体的な実行プランを提言としてまとめました。

発表は、それぞれのグループが、1年生から行ってきた探究活動の集大成として、しっかりとした発表を行いました。



## ～生徒の感想～

- 復旧方法だけでなく、伝え方としてストーリーテリングを提案しているという点で、異なる班同士で協力する意義があると思った。
- 災害時の医療現場での情報共有でアナログなものが大事。
- 輪島塗や魚など、能登の魅力を伝えられるようなプランだったので県外の人にも興味を持ってきて、能登の活性化に大きくつながると思いました。
- 廃校とボランティアの宿泊場所の不足の2つの問題を解決できる案ですごかった。
- 文化財を守るための支援を促しているのが良かった。
- ハザードマップを身近なものにするために、ボードゲームを利用することで、より多くの人々がゲーム感覚で学びを得ることができていいと思った。
- 避難所の環境を向上させるためにトイレの臭いに着目しているのは自分にはない考えですごいと思った。
- 人との関わりがないと体も衰弱していくのでとても大切だと感じた。

## 課題研究 I (第1学年普通科)

## 自然科学研究 I (第1学年理数科)

### 「ポスター発表会」(7月11日)

文献調査で調べた偉人や科学者などのレポートを元にポスターを作成して、その発表会を行いました。初めてとあって、原稿の暗記、ポスターの見せ方、質疑応答などに苦戦する様子も見られましたが、どの班も練習の跡が伺え、今後の伸びが大いに期待できる発表でした。

### 生徒の感想

- いろいろな偉人のやったことや経歴が知れて面白かった。
- 自分の言葉でまとめたり、ポスターを見た人にわかりやすくするのが難しかった。
- 見る人、聞く人にわかりやすくするためのポイントをたくさん学ぶことができた。
- 内容が良くても相手にわかりやすく伝えるポスター制作と話し方が大切だとわかった。
- 同じ偉人の内容でも説明することや注目点が全然違ってたくさんのお話があって楽しかった。



## Research Communication II (第2学年理数科)

7月15日(火)に、本校視聴覚教室で Future Technologies at hand (手の届く未来) と題して、未来を感じさせる10の技術について英語で発表を行いました。発表はポスターセッション形式で、複数の班が部屋のあちこちで同時に発表を行い、聴衆も小グループに分かれて発表を聞いて回ります。聴衆を変えて同じ発表を繰り返すことで、どの班も上達が見られました。



### 発表テーマ一覧

- 「自己学習する人工知能」
- 「自動運転車」
- 「受精卵の遺伝子操作」
- 「AR (拡張現実)」
- 「火星移住計画」
- 「3D プリンター」
- 「マイクロロボット」
- 「遠隔治療」
- 「農業助手ロボット」
- 「自然災害予測」